

授業科目名	演劇ワークショップ実習B	担当教員	石井 路子 田上 豊
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	実習		
開講年次	1年第4クォーター		
講義内容	<p>冬季集中講義として短期間で集中して、演出家やドラマティージャーの仕事について学ぶために、ワークショップ形式での実習を行う。</p> <p>コミュニケーションに必要な情報共有の力や合意形成の力、さらに身体に表れる非言語を読み解く力、またクリエイションに必要なポジティブな思考や協働のスキルを学ぶ。「演出家」や「ドラマティージャー」といった他者とのコミュニケーションが不可欠な仕事について、上述したスキルを駆使しながら役割を遂行する術について学ぶ。</p>		
到達目標	<p>1.演出家やドラマティージャーに必要な諸能力を示すことができる。</p> <p>2.演出家やドラマティージャーを活かした仕事の企画を立案できる。</p>		
授業計画	<p>8日間の集中講義（1日6時間）で実施する。</p> <p>1 身体感覚と表現との関係について知るために、心と身体の間についてワークを体験する。</p> <p>2 身体とパーソナリティの関係に気づくためのワークを体験する。</p> <p>3 協働する際に必要なスキル、無駄を省いたシンプルな行動や非言語によるコミュニケーションについて考えるワークを体験する。</p> <p>4 協働する際に必要なスキル、非言語コミュニケーションをさらに発展させ、言語を介さずに意思を読み解き、自らも発信するワークを体験する。</p> <p>5 ドラマティージャーとして必要なファシリテーションのスキルについて知るためのワークを体験する。</p> <p>6 講座の最初の30分で小作品をグループ創作し、発表。それを土台として演出的にどのような改善が考えられるか、実践的に学ぶ。</p> <p>7 前時で学んだ演出テクニックを駆使しながら、講座の最初の30分で小作品をグループ創作し発表。相互批評の上、改善し再度発表する。</p> <p>8 演出する際に必要なコンテキストのすり合わせについて考えるためのワークを体験する。</p>		
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回授業で学んだ内容に関するミニレポートを作成し、提出すること。</li> <li>・授業開講前に『ことばが劈かれるとき』（竹内敏晴著）を読んだ上で授業に臨む。</li> <li>・第8時に関しては、『演劇入門』（平田オリザ著）の第4章-1を事前に読み、疑問点を明らかにした上で授業に臨む。</li> </ul>		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に指定しない。</li> </ul>		
参考文献	<p>「ことばが劈かれるとき」竹内敏晴著 ちくま文庫 1988年</p> <p>「演劇入門」平田オリザ著 講談社現代新書 1998年</p>		

成績評価の基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演出家・ドラマティーチャーに必要な人間洞察、表現しようとする過程への視座、表現への導きを可能にするポジティブストロークを理解し、実践しようとするマインドが形成されているか。</li> <li>・ WS への取り組み姿勢や態度 (50%)、日々の WS レポート (50%)</li> </ul>
履修上の注意 履修要件	
実践的教育	芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	定員超過の場合、抽選を実施します。